

困難を抱える女性支援事業【札幌市】

総事業費	6,530千円
交付金額	4,897千円

地域の実情と課題

- ・札幌市は、市民一人当たりの所得が(公表している政令市の中では)2番目に低い。政令指定都市中女性の割合が最も高いが、雇用形態比率のうち女性の正規雇用者割合が全国と比べて低い。また、小売業・サービス業など第3次産業への女性就業者が多い傾向にある。
- ・物価高による食料費の圧迫などにより、生活困窮に関する悩みや精神疾患などの健康問題を抱えることが多い。専門相談窓口にも同行も行っているが、ワンストップで完結しない場合がある。

事業の特徴

- ・困難を抱える女性の相談窓口として、匿名で気軽に相談できるLINE相談窓口を開設したほか、一度相談につながった女性に、近況確認するなどのフォローアップを実施した。
- ・NPO法人と連携し、生活支援物資等の配布イベントを実施。参加者にアンケートに回答してもらい、スタッフと気軽に相談できる環境とした。
- ・女性がリラックスでき、居場所づくりの一環としてのワークショップを開催。
- ・困難を抱える女性の家に訪問し相談を行うアウトリーチ型の支援を実施した。

事業の効果

- ・SNS相談窓口における相談者は、具体的な解決策を得ることよりも、話を聞いてもらうことで満足感や安心感を得る傾向にあり、継続した相談体制の継続は、女性の不安解消の一助となっている。
- ・本事業で関わった女性の中には、すぐにご自身の状況を話すのではなく、相談員やスタッフとある程度関わりをもってから、お悩みを話す方が一定数おり、孤立状態から抜け出す契機となっている。
- ・女性支援を行うNPO法人と連携することで、実際の支援へ早急につながることができている。

目的・目標

目的…孤独・孤立状態になり不安を抱えている女性対し、相談支援および実態把握を行う

	目標	実績
相談人数(のべ)	600名	803名
実態調査件数	700件	484件

連携団体

- ・NPO法人女のスペース・おん
- ・NPO法人北海道ネウボラ
- ・特定非営利活動法人CAN
- ・特定非営利活動法人リカバリー
- ・特定非営利活動法人北海道レインボー・リソースセンターL-Port
- ・特定非営利活動法人女性サポートセンターAsyl
- ・株式会社FUJI

など

今後の課題

イベントや相談支援で一時的に関わりをもっても、その後関係が途絶えてしまう方も多く存在するため、つながり続ける支援が必要であるほか、女性が抱える困難な問題は様々であるため、引き続き他機関と連携しながら支援を行う必要がある。

事業の概要

①女性の居場所作り

女性支援を行うNPO法人等と共に生理用品や民間支援団体が寄付や補助金等を活用して入手した生活支援物資の配布イベントを4回実施。来場者には困りごとに関するアンケートに回答してもらった。あわせて、スタッフより女性に声掛けを行い、相談希望があった場合は、別室で相談をお伺いし、必要に応じて専門機関の紹介を行った。また、継続的に利用している方にも希望があれば毎回お話を伺い、スタッフとの継続的**関係構築**を行った。

<イベントの様子>



②居場所サロンの開催

女性がリラックスでき、居場所づくりの一環としての居場所サロンを2回開催。



②SNS相談窓口を設置

平日13:00~17:00(年末年始・祝日を除く)においてLINEによるSNS相談を実施した。

③訪問相談支援(アウトリーチ支援)

女性支援を行う市内NPO法人が、さまざまな困難を抱える女性の家に訪問し相談支援を行った。また本人が希望した場合は、行政手続き等への同行支援も行っている。

④相談者へのフォローアップ

一度相談につながった女性に、後日スタッフより状況を確認するなどフォローアップを行ったほか、次回のイベント案内を行うなどして、次の相談のきっかけになるよう働きかけた。

⑤アンケート調査による実態把握

イベント来場者へアンケートを実施し、女性の属性や困りごとについて把握した。本事業にて484件の回答を得た。